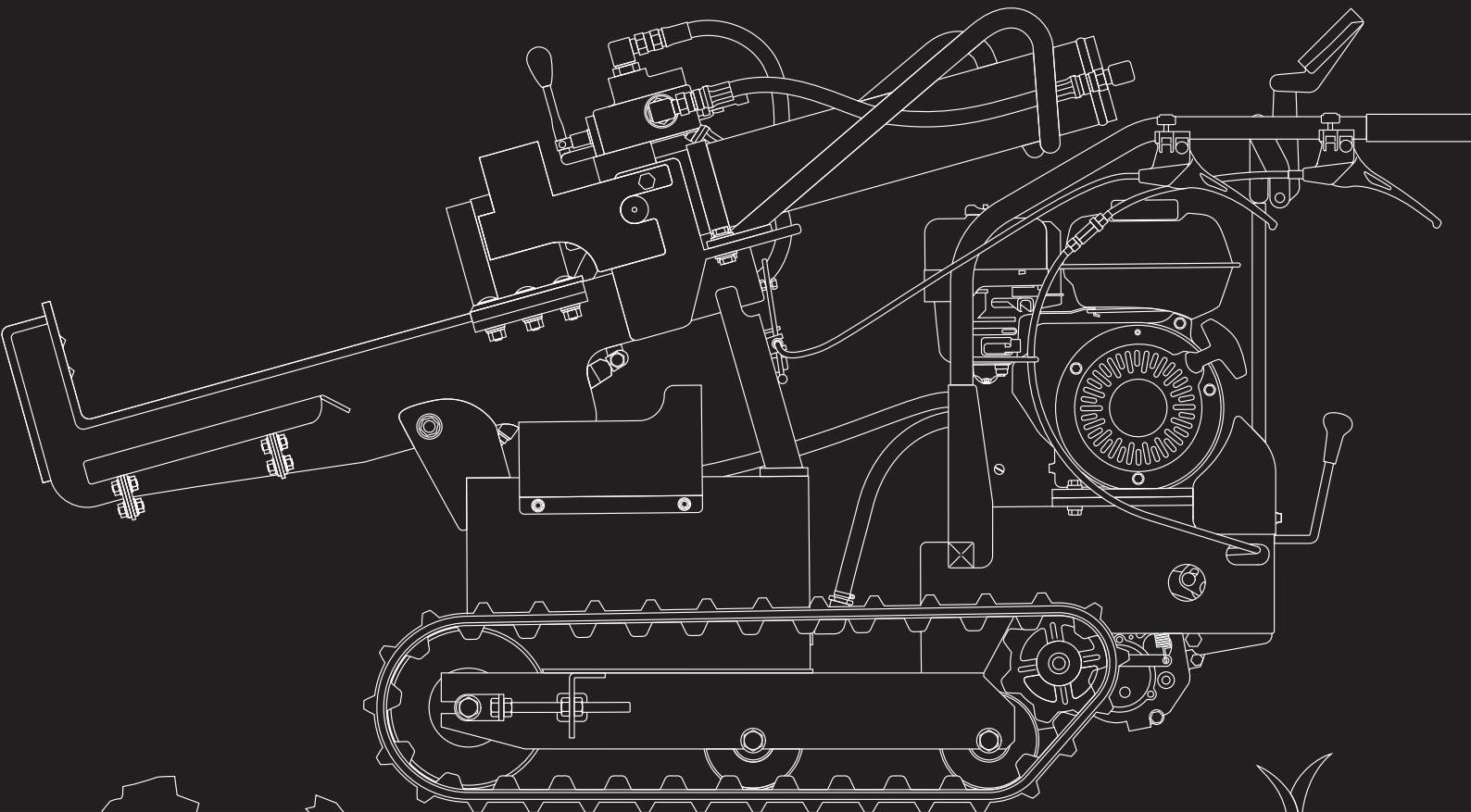


縦横兼用薪割り機 MASAKARIO

SELF-PROPELLED

MS1800j-GXC

OPERATING MANUAL



はじめに

この度は、当社の薪割り機 MS1800J-GXC をご購入いただき厚くお礼申し上げます。

本製品がいつまでもお役に立ちますよう、取扱い説明書を十分お読みの上、ご使用ください。

メーカーは、機械の用法、運転、点検、整備を直接監督指導することはできません。

正しく安全に作業を実施するのは、あなた自身です。

尚、この取扱い説明書で述べていることの他にも作業によっては、法令、条例、規則や保険条件などが適用されることがありますので十分ご注意ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。

尚、仕様変更などにより本製品と取扱い説明書の内容が異なる場合もありますのであらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。なお、ラベルが汚れている場合は石鹼水で洗い、柔らかい布で拭いてください。汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し必ず所定の位置に貼ってください。ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

— 注意表示に関して —

この取扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項に関して次のように表示します。

-  **危険** …… 注意事項を守らないと、死亡または重症を負うことになるものを示します。
-  **警告** …… 注意事項を守らないと、死亡または重症を負う危険性があるものを示します。
-  **注意** …… 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示しています。
- 重要** …… 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれがあるものを示しています。
- 補足** …… その他、使用上役立つ補足説明を示します。

もくじ

▲ 安全作業のために	4
1 サービスと保証について	15
2 各部の名称	16
3 エンジン始動前に	
1 作業前の点検	17
2 エンジンオイルの点検	17
3 油圧オイルの点検	18
4 燃料の点検	18
4 エンジンの始動・停止の仕方	
1 エンジン始動	19
2 エンジン停止	20
5 操作方法	
1 発進・走行・変速方法	20
2 旋回	21
3 傾斜地（坂道）走行	22
4 停止・駐車	23
5 姿勢変更 縦型・横型	24
6 ならし運転	24
7 薪割り	25
8 サイドポケット	26
6 本機の輸送要領	
1 トラックによる輸送	27
7 保守点検	
1 点検整備の注意事項	28
2 仕業点検	29
3 定期点検・整備（定期点検一覧表）	30
4 燃料について	31
5 油圧オイルについて	31
6 エンジンオイルについて	32
7 トランスミッションオイルについて	32
8 各部のグリス・オイル要領	33
9 プラグ清掃・交換について	33

8	調整方法	
1	走行クラッチ調整	34
2	駐車ブレーキ調整	34
3	旋回レバー調整	35
4	クローラ張り調整	35
9	寒冷期注意	36
10	長期保管時の注意	36
11	トラブルシューティング	38
12	仕様	40
	パーツリスト・保証書	45

! 安全作業のために

1 安全 7 憲章

安全に作業するための基本です。作業前には復唱し守ってください。

- ① 作業開始前に仕業点検をおこないます。
- ② 道路は走行しません。
- ③ 路肩・崖地などを走行するときは、転落などに注意して走行します。
- ④ ほ場へ出入りするときは、スピードを落としてあぜに対して直角におこないます。
- ⑤ 薪割り機を点検整備するときは、必ずエンジンを止めておこないます。
- ⑥ 補助者と共同作業をおこなうときは、声をかけあって合図をし、安全を確認します。

これ以外にもぜひ守って頂きたい注意事項を、”安全作業のために”でまとめて取り上げておりますので、よくお読みいただいて必ず守ってください。

2 安全作業のために、次のことがらを必ず守ってください。

本製品（今後は本機と呼びます）を使用する前に、必ずこの取扱い説明書並びにエンジンの取扱い説明書をよく読み、十分理解した上で安全な作業をしてください。

ちょっとした油断、不注意から事故を起こさないため、次の注意事項は特に注意して常に安全に作業してください。



作業をはじめる前に

1 安全な服装で!

服装はキチンとした、だぶつきの無い活動的なものを着用し、ヘルメット、安全靴や長靴を着用の上、作業に適した安全防護具を使用してください。

また、作業中の安全を考慮し、ラジオあるいはミュージックヘッドホンなどを使用しないでください。



2 必ず仕業点検を!

本機を使用される前に必ず仕業点検を実施してください。

- ① 各部の油量や漏れの点検
- ② 各部の油脂状態 ③ クローラの張り具合
- ④ 各部のボルト、ナットのゆるみ点検及び増し締め
- ⑤ 各レバー類の動きが正常かどうかの点検
- ⑥ 緊急停止装置（デッドマンクラッチ）の作動具合

※ 仕業点検により不具合が発見された場合には、直ちに補修などの措置を講じてください。

絶対に、不具合・異常のある状態で使用してはいけません。

3 道路走行禁止・本機運搬時の注意!

本機は『道路運送車両法』により道路での走行はできませんので、ご注意ください。本機を移動させる際は、必ずトラックにて移動させてください。
(道路以外でも人や車が自由に出入りできる場所も道路とみなされます)



4 作業者の制限!

- 1) 次に該当する人は、本機の作業に従事しないでください。
- ① 酒気を帯びた人 ② 若年者 ③ 未熟練者
 - ④ 過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な作業ができない人
 - ⑤ 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供
- 2) 作業が続く場合には、健康に留意し、適当な休息と睡眠をとってください。
妊娠中の方は、作業に従事しないでください。

5 目的以外使用の禁止!

本機は定められた目的以外のために使用すると、機械の安全性が損なわれる場合があります。
危険ですから本機に人や動物を乗せてはいけません。

危険ですから本機に人や動物を乗せてはいけません。

6 改造などの禁止!

本機の改造は危険ですので絶対におこなってはいけません。
故障の原因になるばかりか人身事故にもつながります。

7 機械を貸与する際の注意!

本機を他人に貸す場合は、操作方法などをよく説明し取扱い説明書を手渡してください。また借りた人が作業前に取扱い説明書をよく読み、操作方法を十分理解してから作業を開始するように指導してください。

8 保護カバーは常に装着!

安全のためにある保護カバー類は常に装着してください。
点検などで保護カバーを取り外したときは、必ず元通りに取り付けてから作業してください。そのままにしておくと回転部などに巻き込まれるなどして傷害事故につながるおそれがあります。



9 密閉室内での作業の禁止・換気に注意!

エンジンは有毒ガスを発散しますので、密閉した室内又は換気の悪い場所で使用してはいけません。排気ガスが空気を汚してガス中毒をおこす危険があります。換気には十分注意してください。



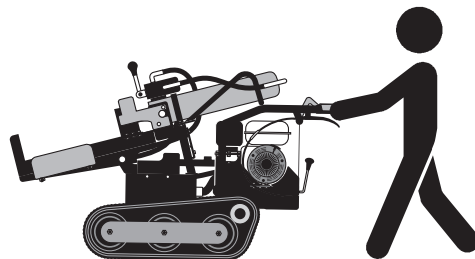
10 火気厳禁!

燃料の補給時や潤滑油、オイルなどの給油・交換時は、エンジンを止めてください。また、火災や引火爆発のおそれがありますので、くわえタバコなどの火気は絶対に近づけてはいけません。こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性がある場合は、エンジンが冷えきってから補給してください。



11 運転作業は慎重に!

運転は正しい位置でおこなってください。
わき見、手放し運転などは危険ですから、絶対にしないでください。



12 共同作業時の注意!

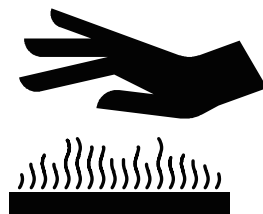
共同で作業するときは、声をかけあって、
お互いにしようとしていることを知らせてください。

13 乗車禁止!

本機などに乗って運転したり、人を乗せて走行しないでください。
転落などの傷害事故を起こすおそれがあります。

14 ヤケドに注意!

エンジン運転中および停止直後のエンジン・マフラなどは、高温のため触れるとヤケドの危険があります。
点検・整備などをおこなう場合は、エンジンの各部が十分に冷えてから(停止後30分以上)作業してください。



15 回転部に注意!

エンジン回転中は、Vベルトなどの回転部分に手や足などを近づけないでください。
巻き込まれる危険があります。
点検・整備作業をおこなう場合は必ずエンジンを停止してから作業をおこなってください。

16 エンジン始動時の注意!

エンジン始動前に必ず次の点を確認してください。

- ・ 走行クラッチレバーが『切』(停止)、主変速レバーが、『中立』(ギヤが入っていない状態)の位置にあることを確認してください。
- ・ 本機の周囲に人がいないことを確認してください。
- ・ エンジンの周囲に可燃物がないことを確認してください。
- ・ 始動する場合は、リコイルのロープを最大に引張って更にスペースがあることを確認してください。

17 夜間走行・作業禁止!

夜間に走行・作業をしてはいけません。

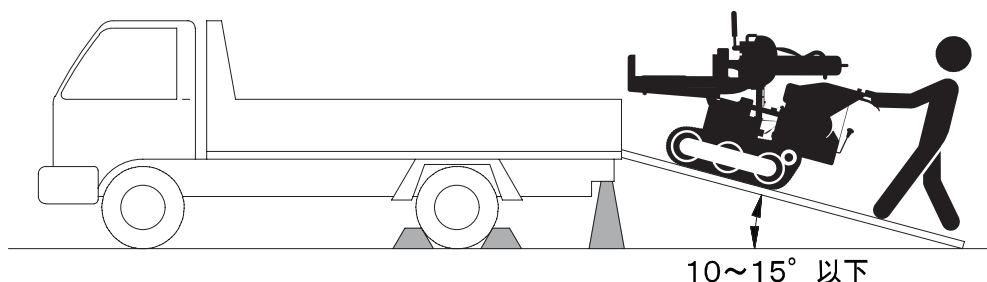
18 異常を感じた時の措置!

音や振動などで本機に異常を感じたときは、直ちに本機を安全な場所に止めてエンジンを停止させ、点検・修理などの適切な処置をとってください。

19 本機を輸送する際の注意!

本機をトラックにて運搬するときは、下記の事に注意してください。

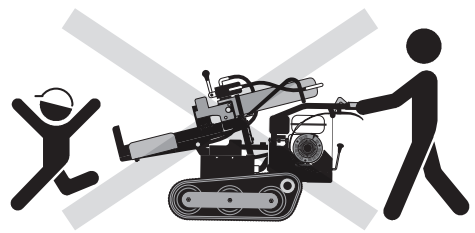
- ① 輸送に関する関係法規に違反しないようにしてください。
- ② トラックへの積み降ろしは、できるだけ誘導者を置きその誘導のもとにおこなってください。
- ③ トラックへの積み降ろしはトラックの駐車ブレーキをかけ、タイヤの前後に輪止めをして動かないようにした上で十分な強度と幅を持ったプラットホームを設けておこなってください。やむをえずアユミ板(道板)を使用するときは、平坦で堅固な場所でおこない、必ず外れ止めの付いた十分強度のあるアユミ板(道板)を使ってください。濡れた材木などは絶対に使ってはいけません。
- ④ アユミ板の角度は本機の安定を保てる角度(10°~15°以下)にしてアユミ板上で本機の方
向修正をしてはいけません。



- ⑤ 積み込みは、ゆっくりと前進で登り、降りるときは、ゆっくりと後進で降りてください。荷台に物を乗せたまま積み降ろしをしてはいけません。アユミ板からトラック荷台へ移るとき、本機の重心移動による反動を防止するため、低速で登りつめ本機が前へのめる直前にいったん停止させ、前のめりを終えてからゆっくり本機をトラック荷台へ完全に乗せてください。
- ⑥ 積み降ろしするときは必ずトラックのタイヤに輪止めをかけ、駐車ブレーキをかけてください。輪止めしなかったり、駐車ブレーキをかけないで積み降ろしをすると、積み降ろしの力でトラックが動き出すようなことがあり危険です。
- ⑦ 積み込み途中でエンストしたときは、走行クラッチレバーを握り続けてください(「入」)。本機が停止状態を維持します。走行クラッチレバーから手を放すと(「切」)、一気に地面まで本機が下り危険です。安全に地面まで下ろすには、走行クラッチレバーを「入」(走行)の状態から一瞬手を放し「切」(停止)にして、再び走行クラッチレバーを「入」(走行)で停止させ、少しずつ下に移動します。「切」(停止)→「入」(走行)を何度か繰り返し、地面まで下ろします。
(傾斜地 注:「入」はギアが噛む→動かない、「切」はギアがフリー→動く)
- ⑧ 積み込み完了後、本機が水平になったら走行クラッチレバーを『切』(停止)の位置にしてさらに、クローラに輪止めをしてワイヤーロープなどで本機をトラック荷台に固定してください。
- ⑨ 運搬中に、本機が動かないように急発進、急停止、急ハンドルを絶対さけてください。

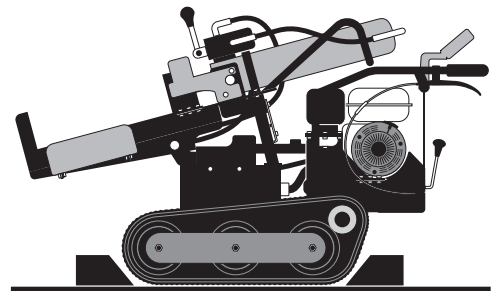
20 作業場内の安全確保!

事故防止のため、作業場内には絶対人(特に子供)を近づけないでください。
思わぬ傷害事故を引き起こす危険があります。



21 駐車時の安全確認!

本機を駐車させるときは、本機を水平に保てる地盤の良い場所に停止させエンジンを停止し、必ず走行クラッチレバーを『切』(停止)の位置にして、クローラに輪止めをかけてください。
もし上記の事を怠ると、本機が自然に動きだすことがあり危険です。
乾いた草などの燃えやすい物の近くに駐車すると火災の原因となり危険です。



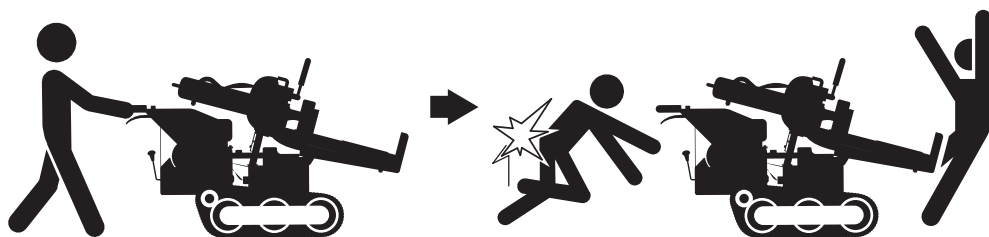
走行時の注意

1 変速時の注意!

主変速レバーは必ず走行クラッチレバーを『切』(停止)の位置にしてから操作してください。走行クラッチレバーが『入』(走行)の位置で主変速レバーを操作するとトランスミッションを破損させます。

2 発進時の注意!

- ・本機を発進させるときは、周囲の安全を十分確認してからおこなってください。
- ・共同作業では、合図をしてください。



3 旋回は低速で!

高速での旋回は、急旋回になり大変危険ですので、旋回はスピードを落としてから、周囲に注意し行ってください。坂道での旋回は危険ですので、なるべく避けてください。

4 障害物乗り越え時は慎重に!

障害物を乗り越えるときは、本機が上昇して危険ですので無理な乗り越えはできるだけ避けてください。やむをえず乗り越える場合は、ゆっくりと慎重におこなってください。

5 傾斜地（坂道）走行時は要注意!

傾斜地を走行するときは、下記の事に注意してください。

- ① 積載時の登坂は前進で、降坂は後進でおこなってください。
- ② 急停止・急発進はしないでください。本機のバランスが崩れ転倒などの危険があります。
- ③ 傾斜地移動中での本機の停止・駐車は絶対に行わないでください。
- ④ 傾斜地移動途中でエンストしたときは、走行クラッチレバーを握り続けてください（「入」）。本機が停止状態を維持します。走行クラッチレバーから手を放すと（「切」）、一気に地面を本機が下り危険です。走行クラッチレバーを握ったまま速やかに輪止めしてください。
- ⑤ 傾斜地で旋回レバーを操作すると、操作した方向とは逆に流れることがありますので注意願います。
- ⑥ 傾斜地の登り降りは必ず直角方向に走行してください。逆に流れることがありますので注意願います。
- ⑦ 傾斜地を降りるときは、エンジンブレーキをきかすため、1速ギヤを使用し、いつでも停止できる姿勢で、低速で安全運転をおこなってください。傾斜地を降りるとき、主変速レバーを『中立』（ギヤが入っていない状態）にして惰性で走行してはいけません。操縦ができなくなる恐れがあります。

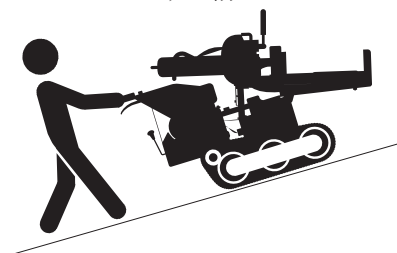
※ エンジンブレーキとは

走行中アクセルレバーを戻したときにかかるブレーキ力です。

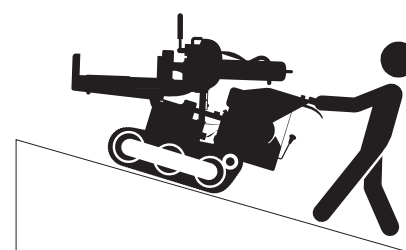
低速ギヤほどエンジンブレーキは強くなります。

- ⑧ 傾斜地での変速は危険です。変速は平らな所でおこなってください。

上りは前から



下りは後ろから

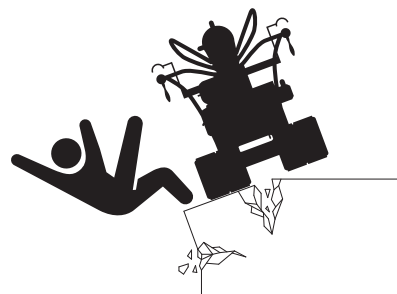


6 路肩・崖地・軟弱地などの走行は慎重に!

路肩、崖地などでの走行は転落の危険があります。地盤の強度を確認し安全確保のため、誘導者を配置して慎重におこなってください。軟弱地での走行は、本機がめり込む恐れがありますので低速で走行し急旋回、急加速や停止はしないでください。

※ 路肩とは

がけなどの上を通る道の、それに沿った端の部分です。



7 雨の時の運転は慎重に!

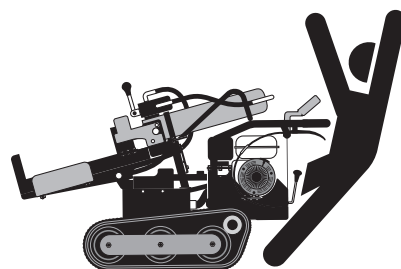
雨の時はスリップや横すべりがおこりやすく危険です。慎重な運転を心掛けてください。自分の技量で危ないと感じたときは、運転してはいけません。無理な運転は事故のもとです。

8 積載時の走行には注意を!

傾斜地での走行は、平地時に比べて重心位置が高くなり、急発進、急停止、急旋回をおこなうと、横転などの危険があります。積載量や路面の状態に合わせて速度を調整し、必要以上に速度を出さず安全運転に努めてください。

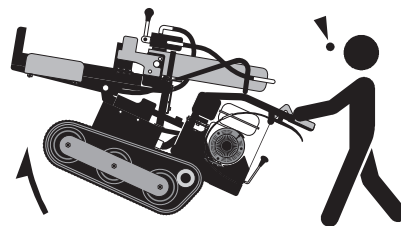
9 後進時の運転は特に慎重に!

後進時は周囲の安全などを確認しながら慎重に運転し、誘導者がいる場合は、必ずその合図にしたがってください。本機は後進時の運転者保護装置として緊急停止装置（デッドマンクラッチ）を装着していますが、通常とは異なる仕様方法、本機の点検整備のなどによっては緊急停止装置が正しく作動しない場合がありますので、正しい使用方法ならびに、使用前の仕業点検を欠かさずおこなってください。



10 傾斜運転時の注意!

傾斜で、エンジン回転を上げた状態で走行クラッチを急激につなぐと本機の前方が浮き上がり危険です。傾斜で発進する際は、必ずエンジン回転を低速にし走行クラッチをつなぎ、動き始めてから徐々にエンジン回転を上げてください。



11 ほ場への出入り（畦・溝越え）は慎重に!

ほ場への出入り（畦・溝越え）は低速で、畦に対して直角におこなってください。畦の高いほ場への出入りのときは、必ずアユミ板（道板）を使用してください。アユミ板を使用しないと、本機の転倒などの危険があります。

12 凍結路面での走行、停止は慎重に!

凍結路面上での高速走行、急停止はスリップや横滑りの危険があります。慎重な運転を心がけてください。また雪中での作業は路肩や設置物が埋もれて見えないことがあります。十分注意して運転してください。自分の技量では危ないと感じたときは、運転してはいけません。無理な運転は事故のもとです。

13 重量規制のある所を走行するときの注意!

木の橋など重量規制のある所を走行するときは、重量規制を守って低速で慎重に走行してください。

14 停止時の注意!

高速走行中に急停止すると本機のバランスがくずれ、スリップなどすることがありますので、急停止を避けて余裕をもって停止させてください。

作業中

1 人や物を乗せての走行禁止!

本機などに人や物を乗せて移動しないでください。転落などの傷害事故を起こすおそれがあります。

2 エンジン始動時の注意!

エンジン始動前に必ず次の点を確認してください。

○本機の周囲に人がいないことを確認してください。

○エンジンの周囲に可燃物がないことを確認してください。

○始動する場合、リコイルのロープを最大に引張って更にスペースがあることを確認してください。

3 可動部に注意!

エンジン始動中はウェッジ（斧）やビーム部分に手や足などを近づけないでください。また、破碎時に丸太に手や足を近づけたりすると巻き込まれる危険がありますのでくれぐれもご注意ください。点検・整備を行う場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。

4 異常を感じた時の措置!

音や振動などで本機に異常を感じたときは、直ちにエンジンを停止させ、点検・修理などの適切な処置をとってください。

5 傾斜地での使用禁止!

傾斜地でのご使用は大変危険です。本機は必ず水平で周囲の安全の確認できる場所でご使用ください。

6 破碎できない場合の注意!

丸太が割れず、シリンダーが途中で停止して5秒以上経過した場合は速やかにウェッジを戻してください。そのまま続けると油圧オイルの温度が上昇し本機を破損する恐れがあります。薪が割れない場合は破碎面を変えたり節などをずらしてみてください。それでも割れない場合は本機の破碎力を超える薪であることを理解してください。また釘や金属が撃ち込まれた木や一度に二本以上の木などを使用しないでください。事故や故障を引き起こす危険があります。

7 複数人での作業の禁止

薪割り作業は1人で作業を行ってください。複数人での作業は思わぬ事故を招く恐れがあります。また作業員以外の人を半径5メートル以内に近づけないでください。

8 作業員のエンジン始動中の退出禁止

作業員はエンジン始動中は決して本機を離れないでください。離れる際は必ずエンジンを停止して下さい。

9 長時間連続作業時の注意!

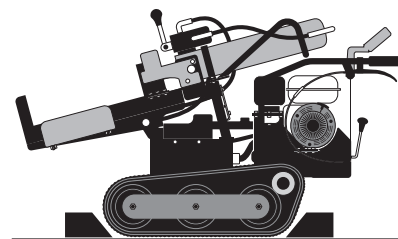
過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。エンジンをかけたまま本機を放置しないでください。誤って操作されると思わぬ事故の原因になることがあります。

走行・作業終了後の注意

1 駐車は安全な場所に!

本機を駐車させるときは、荷台を降ろし、本機を水平に保てる地盤の良い場所に停止させてエンジンを停止し、必ず走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にしてクローラに輪止めをかけてください。

もし上記の事を怠ると、本機が自然に動きだすことがあり危険です。乾いた草などの燃えやすい物の近くに駐車すると火災の原因となり危険です。



2 終了時点検の実施を!

作業終了後に本機を清掃し次の作業の安全を確保するため、各部の点検をおこない異常が認められた場合は、補修などの措置を講じてください。



3 本機の格納は冷えてから!

本機を格納するときは、エンジンやマフラなどの高温部分が冷えてから燃えやすい物が近くにある場所に格納してください。乾いた草などの燃えやすい物の近くに駐車すると火災の原因となり危険です。



点検整備時の注意

1 点検・整備のときは適正な工具の使用を!

点検・整備のときは、適正な工具を使用してください。間に合わせの工具で点検・整備をおこなうと、作業中のけがや整備不良による事故の危険性があります。

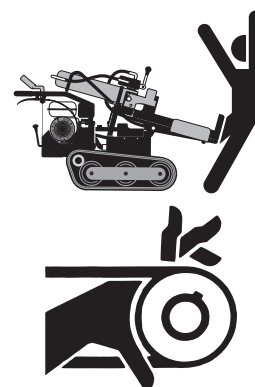


2 点検・整備は安全な場所でエンジンを止めて!

各部の点検・整備は、交通の危険がなく平坦で安全な場所（屋外）に本機を停止させ、必ず走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にして、クローラに輪止めをかけてエンジンを止め、高温部が完全に冷えてからおこなってください。

エンジンをかけた状態での点検・整備は、機械の下敷きになったり、回転部に巻き込まれる危険があります。

点検・整備はエンジンを停止しておこなってください。



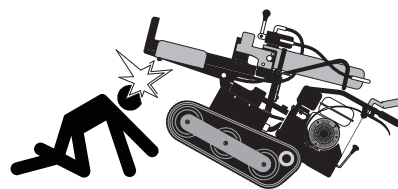
3 マフラの取り扱い注意!

エンジン回転時及びエンジン停止後のマフラは、高温のため触れるとヤケドします。マフラには不用意に触れないでください。



4 本機を持ち上げての点検・整備は要注意!

点検や整備のために、本機を持ち上げるときは、しっかりしたガレージジャッキを使い、落下防止をかけてください。クローラを石や木片に乗り上げて、本機の下へもぐり込んではいけません。落下防止を怠ると、はさまれる危険があります。



5 保護カバーを取り外しての点検・整備は要注意!

点検や整備のために、本機に取り付けられている安全のための保護カバーを取り外すときは、その部分の作動が完全に停止していることを確認してから、保護カバーを取り外してください。巻き込まれる危険があります。点検や整備のために取り外した保護カバーは必ずもとの通りに取り付けてから運転してください。



6 本機はいつも美しく!

本機はいつも美しく保ち、グリスやオイル、木クズの堆積などの火災の恐れのある物を取り除いてください。

(7) 指定オイル以外は使用禁止!

各部の性能を維持、低下させないため指定オイル以外は使用しないでください。

※詳しくは 31、32 ページを参照願います。

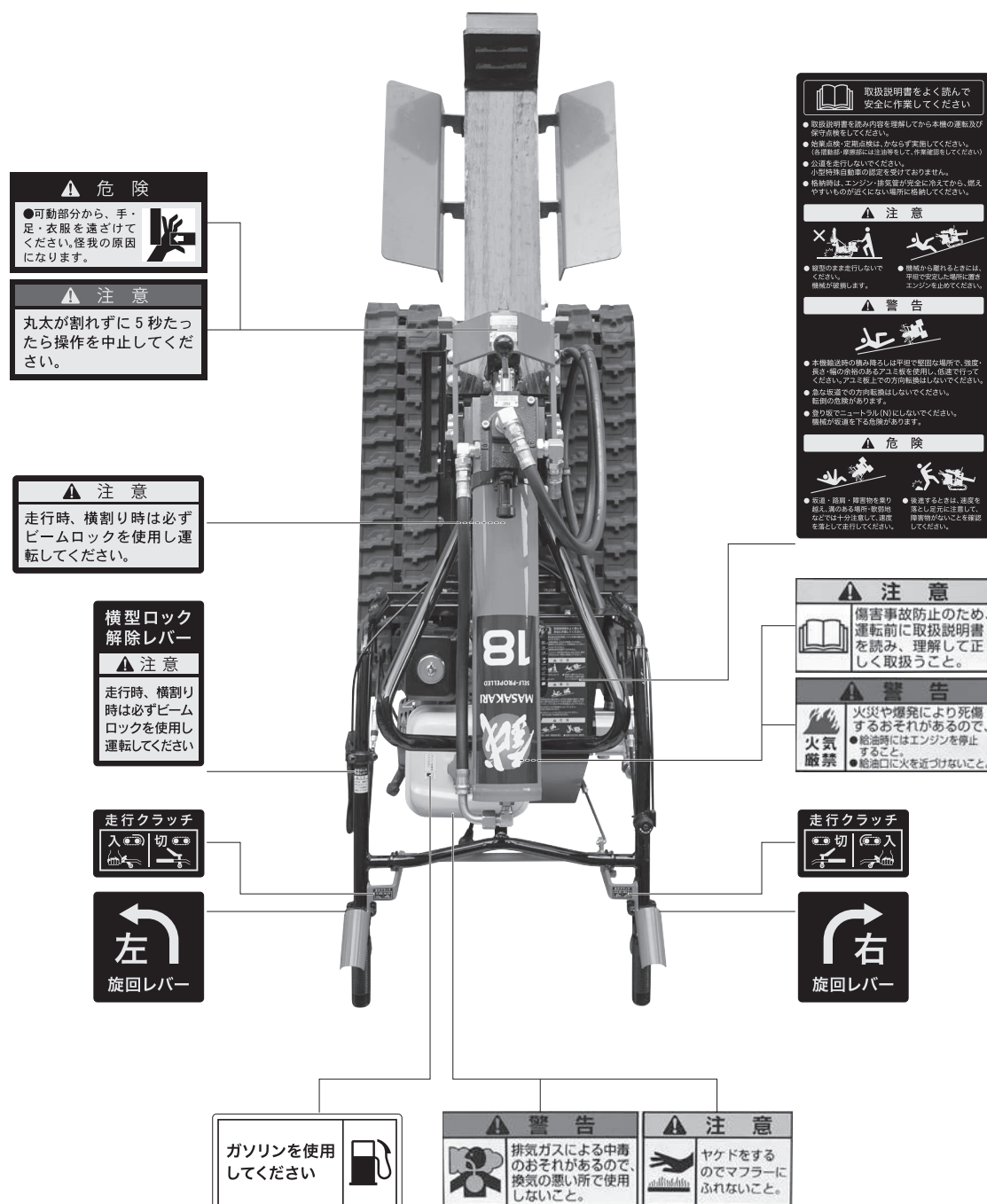
表示ラベルとその取扱い

1 表示ラベルの手入れと貼付位置

本機には安全についてのラベルが貼ってあります。良く読み理解した上で運転してください。

- ① ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
- ② 汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し所定の位置に貼ってください。
- ③ ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。
- ④ 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後元の位置に貼ってください。

□ラベル貼り付け位置



1 サービスと保証について

1

製品保証

本製品には、保証書が添付してあります。詳細は、保証書をご覧ください。

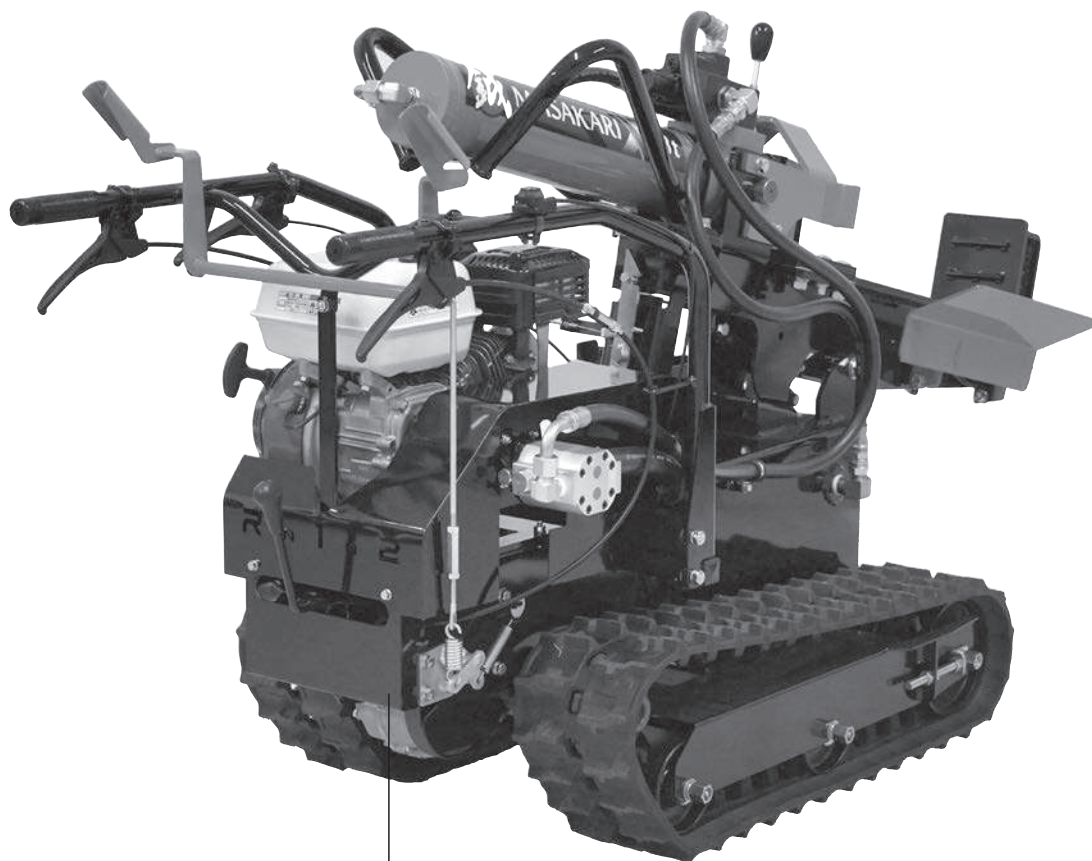
2

サービス（相談窓口）

ご使用中の故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、ご購入された販売店または弊社営業所にお気軽にご相談ください。

その際、本機の型式と製造番号・搭載エンジンの型式・ご購入日などをご連絡ください。

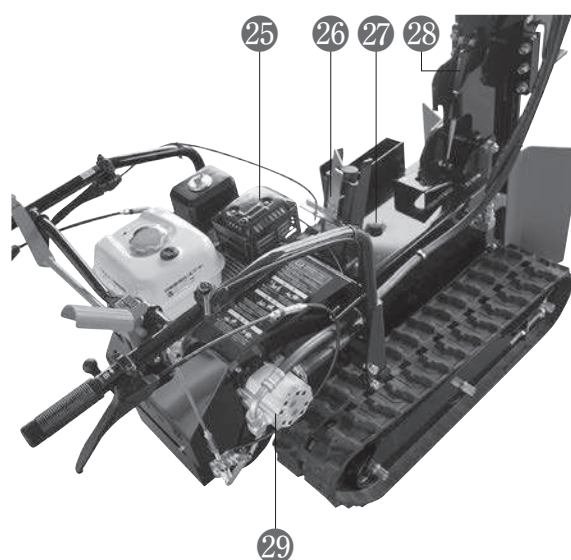
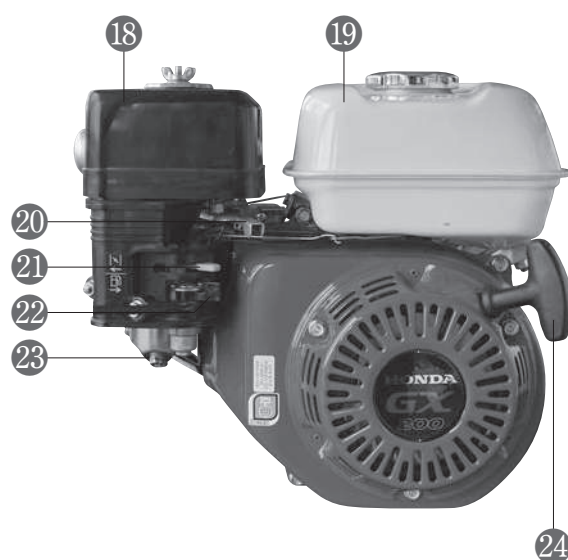
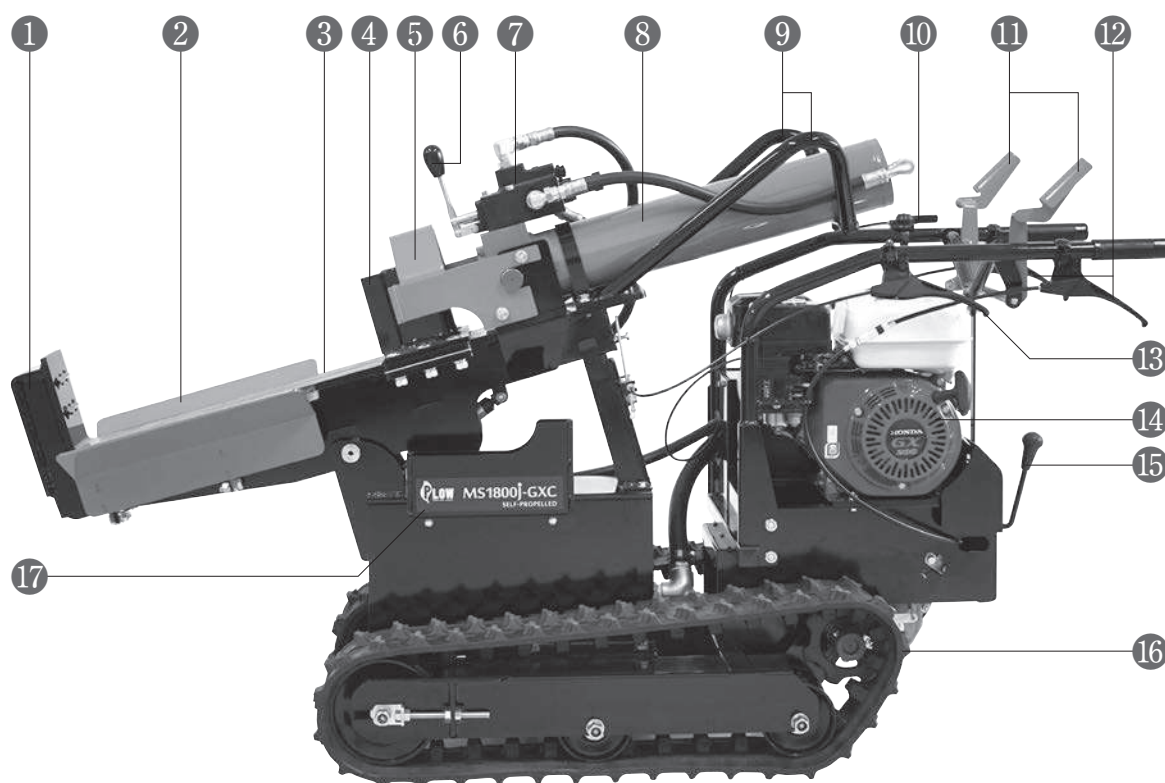
□号機番号貼り付け位置



2 各部の名称

1

各部の名称



- ①エンドプレート
- ②ロググレード
- ③ビーム
- ④ウェッジ
- ⑤シリンダーガード
- ⑥コントロールレバー
- ⑦コントロールバルブ
- ⑧シリンダー
- ⑨ハンドル
- ⑩スロットルレバー

- ⑪走行クラッチレバー
- ⑫旋回レバー
- ⑬横型ロック解除レバー
- ⑭エンジン
- ⑮主変速レバー
- ⑯クローラ
- ⑰サイドポケット
- ⑱エアークリーナー
- ⑲燃料タンク
- ⑳スロットル

- ㉑チョークレバー
- ㉒燃料コックレバー
- ㉓キャブレーター
- ㉔リコイルスターターハンドル
- ㉕マフラー
- ㉖横型ロック
- ㉗油圧オイル給油口
- ㉘エアシリンダー
- ㉙油圧ポンプ

使用前に自分と周囲の安全をしっかりと確保しましょう。事前のチェックを行う事で怪我の危険性が大幅に軽減されます。このマニュアルをよく読み停止方法や操作方法を習得して下さい。

■ 本体の点検

安全に本体を末永くご使用頂くためには事前のチェックが非常に重要です。使用前に修理箇所や問題が見つかった場合はすぐに販売店に修理を依頼してください。また、本書「7 項保守点検 2 仕業点検 29 頁」も合わせて確認してください。

警告 この薪割り機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。
最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行って下さい。

警告 本書記載の使用前点検・使用後のメンテナンスが適切に行われていない場合の故障・不具合については保証期間内でも保証対象外となりますのでご注意ください。

■ 服装のチェック

○手・足・目・頭部に対し、適切なグローブ・安全靴・ゴーグル・ヘルメットがない場合は薪割り機の使用を中止してください。

○だぶつきのない活動しやすい作業服を着てご使用ください。また巻き込まれる危険のある装飾品や名札、ペンなどは身に付けて作業しないでください。

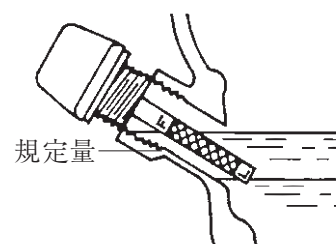
○作業場の安全を考慮し、ラジオやオーディオ、ヘッドホンなどを使用して作業しないでください。

警告 エンジン始動前に必ずエンジンオイルを規定量まで入れてください。正しい量のエンジンオイルを入れずに始動した場合はエンジンが故障します。この件での故障についてはいかなる理由があっても保証対象外となりますのでご注意ください。

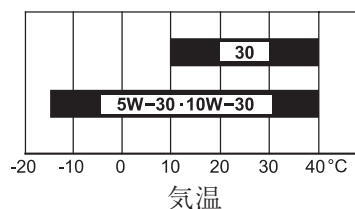
- ① 本機が水平になっていることを確認して下さい。
- ② エンジンオイル給油口のキャップ / ディップスティックを取り外します。
- ③ オイルが規定量であるのを確認してください。
- ③ 量が少なかったり、汚れている場合は交換・充填を行ってください。(エンジンオイルについて 32 頁参照)



危険 エンジンが温まっているとエンジンオイルが高温になっている場合があります火傷の危険があります。エンジンオイルの点検は必ずエンジンが冷えた状態で行ってください。



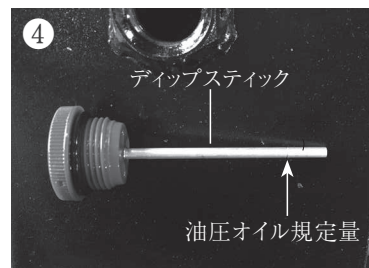
注意 エンジンオイルは使用時に燃焼したり、汚れたりしていきます。定期的に交換・充填を行うようにしてください。



- ① 薪割り機が水平になっていることを確認します。
- ② 油圧オイル給油口のキャップを左に回して外します。
- ③ キャップについているディップスティックをウエスなどで一度ふき取ってから、給油口にキャップを根元まで差し込みオイル量を計測します。
- ④ オイル量が規定量のラインにあることを確認します。(④参照)
- ⑤ 少ない場合は油圧オイルを追加してください。

⚠ 危険

エンジンが温まっているときは油圧オイルのキャップ・ホースを取り外さないでください。高温のオイルが噴き出す恐れがあります。また本機は作動中、高い圧力と高温が本機内に発生し油圧オイルが極小の穴から噴き出す恐れがあります。高压のオイルは皮膚を穿刺し、切断を伴う重症の負傷を負う危険がありますので絶対に触らないで下さい。万一、負傷をした場合は極小の負傷でも直ちに医師の診断を受けてください。



- 燃料は購入してから1ヶ月以内の新鮮なレギュラーガソリンをご使用ください。
- 古いガソリンや混合燃料は決して使用しないでください。
- タンク内は清潔に保ち水が入らないようにしてください。
- 指定のガソリン以外のものを使用した場合のエンジントラブル・損傷や性能の低下はメーカー保証の対象外となります。
- ガソリンは塗装やプラスチック面に損傷を与える可能性があるのでこぼれた場合はすぐに拭き取って下さい。こぼれた燃料による損傷はメーカー保証の対象になりません。

⚠ 危険

本機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行って下さい。

■ 点検

燃料給油キャップを外し、燃料があるか点検します。少ない場合は補給してください。

■ 補給

[使用燃料] 無鉛レギュラーガソリン

燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないよう補給します。給油後、燃料給油キャップを確実に締め付けてください。

● 始動前の点検 エンジン始動前に仕業点検をおこなってください。

※エンジンについての詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。



警告

エンジンを始動する前に

※ エンジンは有毒ガスを発散しますので、密閉した室内又は換気の悪い場所でエンジンを始動してはいけません。排気ガスが空気を汚してガス中毒をおこす危険があります。

※エンジンの始動時は周囲の安全を確かめてから始動してください。



重要

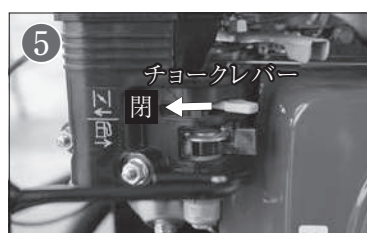
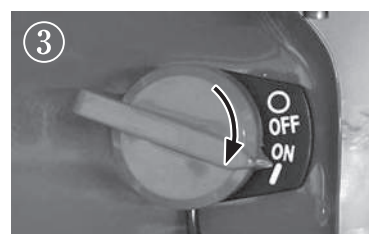
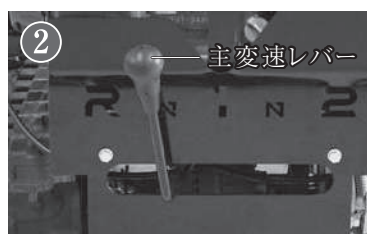
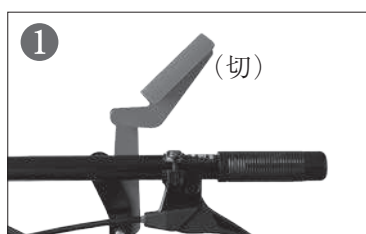
エンジン始動後、下記のような状態になった場合はエンジンを直ちに停止してください。

○ エンジン回転が急に上昇したり、下降したりする ○ 突然異常音を立てた

○ 排気色が悪くなった

点検整備は、サービス工場にご相談の上、その指示に従ってください。

■ エンジン始動の仕方



① 走行クラッチレバーが『切』（停止）の位置にあることを確認します。

② 主変速レバーが『中立』（N）の位置にあることを確認します。

③ エンジンスイッチを『ON』の位置にします。

※エンジンについての詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。

④ アクセルレバーを『低』と『高』の中間の位置にします。

⑤ チョークレバーを『閉』の位置にします。

※チョーク操作についての詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。

※エンジンが暖まっているときは、チョーク操作は不要です。

⑥ リコイルスターターハンドルを握って勢いよく引張ります。

⑦ エンジンが始動したら、エンジン回転の状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に戻してください。

※必ず一杯まで戻してください。

⑧ エンジン始動後は、アクセルレバーを『低』の位置にして、3～5分間は暖気運転をしてください。



警告

エンジンの暖気運転中は、必ず走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にしてください。怠ると、本機が動きだすおそれがあります。

■エンジン停止のしかた

- ①スロットルレバーを『低』の位置にして、1～2分運転します。
- ②エンジンキーをOFFにします。
- ③燃料コックを左（←）に閉じます。



注 意

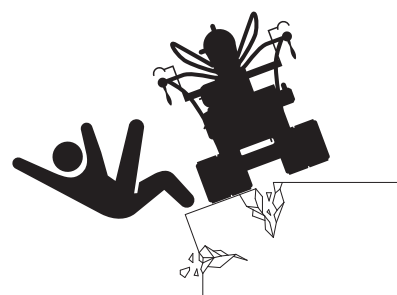
エンジンを急停止するとエンジン各部の寿命を縮める恐れがあります。通常はスロットルを低速にし回転数を落として、しばらくおいてからエンジンを停止するようにしてください。

操作方法



危 険

○ 路肩、崖地付近を走行する場合は、転落の危険があります。地盤の強度を確認し、地盤が崩落しないよう十分な余裕をとるか、補強などの適切な処置を取ってください。また安全確保のため、誘導者を配置して慎重に走行してください。落石のおそれがある現場には近づかないでください。



- ほ場への出入り（畦・溝越え）は低速で、畦・溝に対して直角におこなってください。高低差の大きい傾斜地の昇りや、溝越えが必要な場合、必ずアユミ板（道板）を使用してください。アユミ板を使用しないと、本機の転倒などの危険があります。
- 夜間に走行・作業をしてはいけません。
- 本機を発進させるときは、周囲に人や障害物がないか十分確認してからおこなってください。共同作業ではお互いに合図をしてから発進してください。
- 軟弱地での走行は、本機がめり込むおそれがありますので、低速で走行し、急旋回、急加速や停止をしないでください。
- 後進時は、周囲の人が安全な場所にいることを確認しながら、慎重におこなってください。



警 告

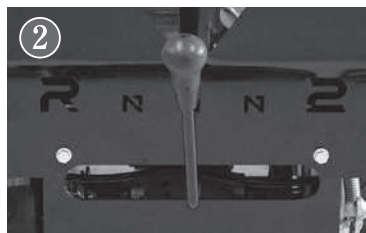
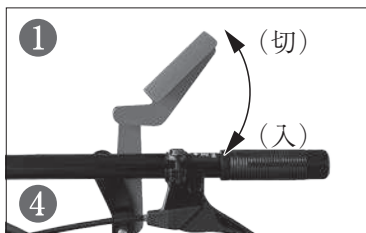
- 重心位置が高いので、急発進、急停止、急旋回をおこなうと、横転などの危険があります。積載量や路面の状態に合わせて速度を調整し、必要以上の速度を出さず安全運転に努めてください。
- 障害物を乗り越えるときは、本機が急上昇して危険です。無理な乗り越えはやめてください。やむをえず乗り越える場合は、ゆっくりと慎重におこなってください。
- 服装はキチンとした、だぶつきの無い活動的なものを着用し、ヘルメット、安全靴や長靴を着用の上、作業に適した安全防護具を使用してください。
- 上り坂発進時にエンストした時は、走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にしてください。怠ると、本機が自重で落下し危険です。



注意

- 本機は『道路運送車両法』により道路（公道）での走行はできませんので、ご注意ください。道路以外でも人や車が自由に出入りできる場所も道路とみなされます。
- 人を機体などに乗せて走行してはいけません。
- エンジン回転を上げた状態で走行クラッチを急激につなぐと、急発進して危険です。発進する際は、必ずエンジン回転を低速にし走行クラッチをつなぎ、動き始めてから徐々にエンジン回転を上げてください。
- 主変速レバー操作時に、ギヤ（歯車）が完全にかみ合っていないと、ギヤ抜けの危険性がありますので、主変速レバーは確実にに入れてください。

■ 発進操作



- ① 走行クラッチレバーが『切』（停止）の位置にあることを確認します。
- ② 主変速レバーを希望する位置に確実にに入れてください。
- ③ スロットルレバーを左方向へ回し、エンジン回転を少し上げます。
- ④ 走行クラッチレバーを『入』（走行）の位置までしっかり握り走行クラッチをつなぎ、発進します。

重要

- 主変速レバーの操作は、必ず走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にしてからおこなってください。走行クラッチレバーが『入』（走行）の位置にある状態で主変速レバーを操作すると、トランスミッションを破損させます。
- 発進後、マフラより黒煙を出し続けている場合は、主変速を一段落としてください。黒煙は過負荷運転を示しています。過負荷での連続運転は故障の原因となりますのでやめてください。

補足

- 主変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを『入』（走行）の方向に少し動かしてから再操作してください。

2

旋回



警告

坂道での旋回は、急旋回することがあり危険ですので避けてください。急な坂道での旋回は本機の横転にもつながります。



注意

旋回する場合は、周囲の安全を確認してから、低速ギヤにてエンジン回転を下げてからおこなってください。高速で旋回操作すると、急旋回となり危険です。

■ 発進操作



- ① 左旋回レバーを握れば左に、右旋回レバーを握れば右方向に旋回します。

重要

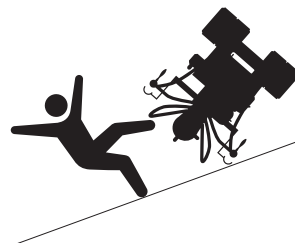
コンクリートの路面上や鋭利な突起物上での急旋回は、クローラ破損の原因となるので避けてください。

**危険**

傾斜地（坂道）での登り降りは必ず、等高線に対して直角方向に走行してください。平行又は斜めに走行すると、横転の危険があります。

**警告**

○ 登坂・降坂は本機の重心位置を常に考慮して走行してください。



《 重心位置は常に山側に 》

- 急停止・急発進はしないでください。本機のバランスが崩れ、転倒の危険があります。
- 傾斜地で旋回レバーを操作すると、操作した方向とは逆に流れることがあります。
- 傾斜地移動中での本機の停止・駐車は絶対に行わないでください。
- 傾斜地移動途中でエンストしたときは、走行クラッチレバーを握り続けてください（「入」）。本機が停止状態を維持します。走行クラッチレバーから手を放すと（「切」）、一気に地面を本機が下り危険です。走行クラッチレバーを握ったまま速やかに輪止めしてください。
- 傾斜地での変速操作は危険です。変速操作は平らな所でおこなってください。

**注意**

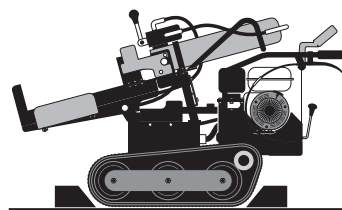
- 傾斜地を降りるときは、エンジnbrakeをきかすため、1速ギヤを使用し、いつでも停止できる姿勢で、低速で安全運転をおこなってください。
傾斜地を降りるとき、主変速レバーを『中立』（ギヤが入っていない状態）にした
りして慣性で走行してはいけません。操縦できなくなるおそれがあります。

！ 危険

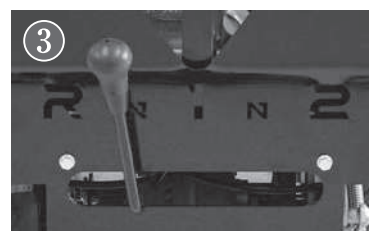
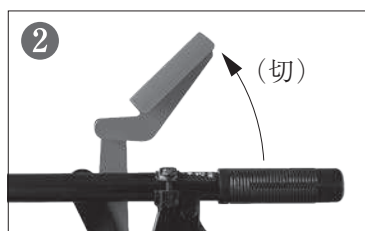
- 緊急時（本機に異常を感じたときなど）は、走行クラッチレバーを『入』（停止）の位置にして本機を停止させてください。
※急停止すると本機のバランスがくずれ、前のめりになったり、スリップすることがあり危険です。十分注意してください。
- 高速走行時、坂道を下るときに急停止すると本機のバランスがくずれ、前のめりになることがありますので、急停止を避けて余裕をもって停止させてください。
- 本機から離れるときは、必ず走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にしてください。怠ると、本機が自然に動きだすおそれがあります。

！ 警告

- 路面の状態によって本機の停止距離が変わります。
急停止を避けて余裕をもって停止させてください。
- 本機を駐車させるときは、本機を水平に保てる地盤の良い場所に停止させエンジンを停止し、必ず走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にして、クローラに輪止めをかけてください。

**！ 注意**

乾いた草などの燃えやすい物の近くに停車・駐車すると、火災の原因となり危険です。

■ 停止・駐車の方法

- ① スロットルレバーを右方向へ回し、エンジン回転を下げます。
- ② 走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にします。
- ③ 主変速レバーを『中立』（ギヤが入ってない状態）にしてから、エンジンを停止させます。
※エンジンの停止方法は「エンジン停止のしかた」（20 ページ）を参照願います。



警告

薪割り作業中は半径 5m 以内に作業員以外の人立ち入らないようご注意ください。また、作業員はだぶつきのない作業しやすい服装で、作業手袋、ゴーグル、安全靴、ヘルメット等を着用して安全を確認して作業を行ってください。



警告

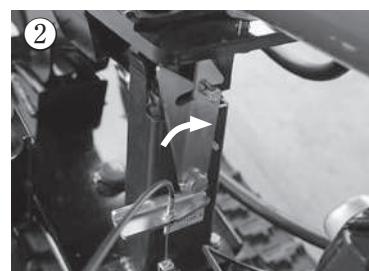
縦横の姿勢変更を行う際は、必ずエンジンを停止し、油圧シリンダーの圧が抜けている状態で行ってください。また、斜面や凹凸のある場所で姿勢変更を行うと転倒する恐れがあります。必ず凹凸のない水平な場所で行ってください。

■ 横型から縦型へ



- ① 左手ハンドルにある横型ロック解除レバーを握るとロックが解除されます。
- ② 横型ロック解除レバーを握りながら、薪割り機の後方のハンドルを持ち上げ縦型にします。
- ③ 薪割り機をしっかりと垂直になるまで立ち上げます。エンドプレートが下につく際、勢いよく地面に打ちつけないよう注意してください。

■ 縦型から横型へ



- ① ハンドルを後ろに引きゆっくりと倒していきます。
- ② 薪割り機が完全に横になったら、横型ロックに固定されたことを確認してください。

機械の寿命は、最初の100時間の取扱いにより左右されます。下記の点に注意して使用してください。

- ① エンジン始動後約5分間程度暖機運転し、エンジンをよく暖めてから使用してください。
- ② 新車は各可動部分のすり合わせが十分ではありませんので、下記のように使用を実施してください。
 - ◇50時間までは50%以下の負荷で使用する。
 - ◇50～100時間は70%以下の負荷で使用する。
 - ◇100時間以上は全負荷で使用可能。
- ③ エンジンオイルは最初の25時間目に必ず交換してください。



注意

負荷の調整は薪割り量や材などで負荷を調整してください。負荷を軽減するためにスロットルを低速にするなどエンジン出力を下げると、かえってエンジン能力が半減してしまい、負荷がかかったり、故障の原因となる場合があります。

■ 暖機運転

薪を割る前には必ず、5 分以上の暖機運転を行ってください。暖機運転を行わず、油圧オイルが十分に暖まっていないと、機械の能力が十分に発揮されず、重大な故障の原因になる場合があります。必ず十分な暖機運転を行ってから薪割り作業に入ってください。

■ コントロールレバー操作方法

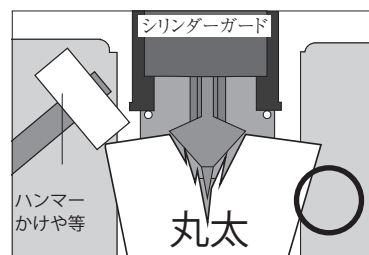
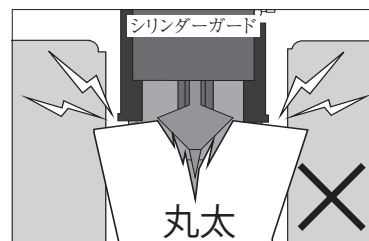
！ 危険 ウェッジ（斧）が動いている時は、本機や丸太から手・足・衣服を遠ざけてください。巻き込まれると重大なケガをする恐れがあります。また破碎時に木片が爆ぜて飛び散る場合がありますので注意してください。

！ 危険 縦型で丸太が大きくエンドプレートからはみ出してしまう場合、エンドプレートの厚みに合わせた樫木など下に敷き丸太を安定させてください。アンバランスな状態の丸太を手などで抑えていると大変危険です。

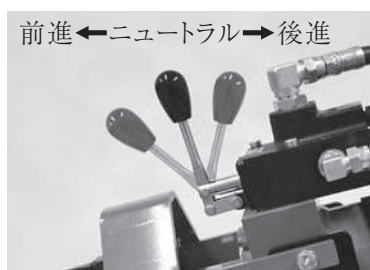
！ 警告 ウェッジ（斧）が丸太に到達し、5 秒たっても割れない場合はウェッジの前進を中止し、丸太の割り面を変えて再度試してみてください。それでも割れない場合は薪が本機の能力以上の強度であることを理解し薪割りを中止してください。無理に固い薪を割ろうとすると本機が損傷する恐れがあります。

！ 注意 ウェッジ（斧）が元の位置に戻りロックが解除される時、操作レバーが勢いよくニュートラルの位置に戻ります。ウェッジの後退動作の時は操作レバーから手を放し軌道上から手を遠ざけてください。

！ 警告 割れない薪や丸太がウェッジに食い込みウェッジのリターン時に外れない場合は、そのままウェッジを戻さず必ず停止してください。丸太が食い込んだ状態でウェッジを戻すと、シリンダーガードに丸太が衝突し、変形や破損をする危険があります。シリンダーガードは、シリンダーに薪や異物が当たらないようにするための保護カバーで、食い込んだ丸太を取る道具ではありません。絶対にシリンダーガードで食い込んだ丸太を取らないでください。丸太がウェッジに食い込んで外れない場合は、必ずウェッジを戻す前に停止し、ハンマーやかけやなどで丸太を取り外してください。薪や丸太などの衝突によるシリンダーガードの変形、破損は保証対象外となります。ご注意ください。



薪を割る際はエンジン始動後、2 ～ 3 分後エンジンが安定し、暖まってきたのを確認したらスロットルを高速（←）にします。薪を割る際はスロットルは必ず高速（←）の状態で使用してください。低速の状態では薪割り作業を行うと力が半減してしまうばかりか故障の原因になる場合があります。

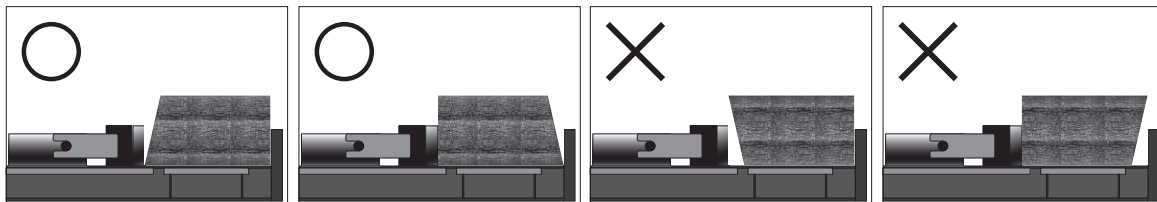


- ① コントロールレバーをウェッジ（斧）側に倒し続けるとウェッジ（斧）がビーム上を前進します。
- ② コントロールレバーから手を放すとニュートラルの位置に戻り、ウェッジはその場で停止します。再度、前進側に倒すとその位置から再度前進します。
- ③ 後進側に倒すとコントロールレバーは後退にロックされ、ウェッジが元の位置まで戻るとコントロールレバーはニュートラルの位置に戻ります。レバーがニュートラルに戻る際、勢いよく戻るので軌道上に手を置かないでください。

■丸太の置き方（横型）

丸太をビームにセットする際は下記の図の様にエンドプレートに丸太が固定されるようにセットしてください。丸太がグラついたり、丸太とエンドプレート・ビームとの間に隙間があると思わぬ方向に丸太が動く可能性があり大変危険です。十分に注意して固定される位置に丸太をセットしてください。横型でご使用の場合は丸太の直径サイズ 30cm 以内にしてください。それ以上の丸太を破碎する場合は縦型にしてご使用ください。

横型破碎最大径	30cm 以内
---------	---------



■丸太の置き方（縦型）

丸太を縦型に置く場合は、エンドプレートから丸太が転がらない位置にセットしてください。また丸太が大きくエンドプレートから大きくはみ出していると転落・転倒の危険があります。その際は、丸太を二つに割るなどしてエンドプレートから大きくはみ出さない様にして作業を行ってください。



8

サイドポケット

本機のサイドにあるポケットに手斧やログピック、トビなどを収納することができます。収納したまま走行もできます。



⚠ 危険

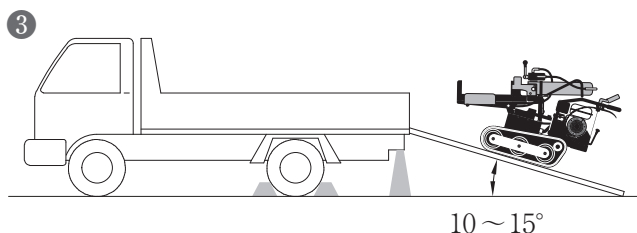
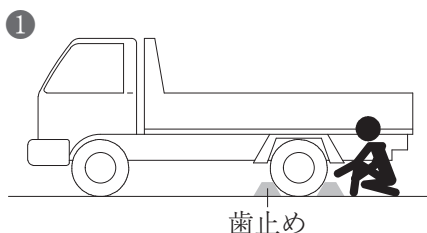
- 刃の長さが極端に長いものや、柄の長さが長いものなど、走行や運転、薪割りの妨げになる場合は収納しないでください。
- スリット穴から出た刃がクローラに当たる場合は危ないので収納しないでください。
- 走行中はポケットへの出し入れは危ないのでやめてください。
- もしも走行中にポケットから斧等が落下した場合は、すぐに走行を停止してください。

**警告**

- 本機の積み降ろしは、平坦で堅固な場所でおこなってください。
- アユミ板（道板）は、十分な強度・幅・長さ（トラック荷台高さの4倍以上の長さ）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- アユミ板の角度は本機の安定性を保てる角度（10～15°以下）にしてください。
- 本機がアユミ板に乗り移り始めたら、旋回レバーを操作しないでください。
- アユミ板の外れ止めは、確実にトラックの掛け金具にはめ込んでください。
- 積み降ろしは、必ず本機が空車の状態で行ってください。
- 積み込み途中でエンストしたときは、走行クラッチレバーを握り続けてください（「入」）。本機が停止状態を維持します。走行クラッチレバーから手を放すと（「切」）、一気に地面まで本機が下り危険です。安全に地面まで下ろすには、走行クラッチレバーを「入」（走行）の状態から一瞬手を放し「切」（停止）にして、再び走行クラッチレバーを「入」（走行）で停止させ、少しずつ下に移動します。「切」（停止）→「入」（走行）を何度か繰り返し、地面まで下ろします。（傾斜地 注：「入」はギアが噛む→動かない、「切」はギアがフリー→動く）
- 輸送中、本機が移動しないように走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にし、さらにクローラに輪止めをして、ワイヤロープなどで本機をトラック荷台に十分固定してください。

**注意**

- 輸送中に本機が動かないように、急発進、急停車、急ハンドルを絶対に避けてください。
- 輸送に関する関係法規に違反しないようにしてください。

■ 積み込みのしかた

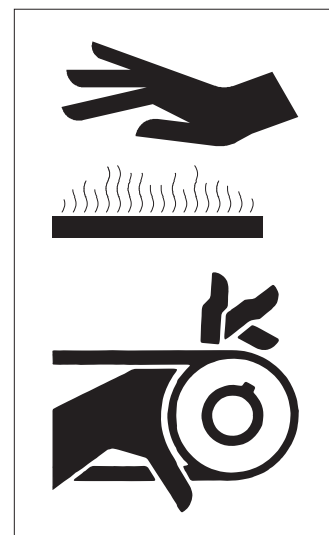
- ① トラックは駐車ブレーキをかけ、タイヤの前後に輪止めをして動かないようにします。
- ② 積み降ろしは、十分な強度と幅をもったプラットホームを設けておこなってください。やむをえずアユミ板（道板）を使用するときは、外れ止めの付いたアユミ板を外れないように取り付けてください。
- ③ クローラとアユミ板の方向をまっすぐ定めてから、ゆっくりと前進で積み込みます。
- ④ アユミ板からトラック荷台へ移るとき、本機の重心移動による反動を防止するため、低速でゆっくり登りつめ、本機が前のめりになる直前にいったん停止させ、前のめりを終えてからゆっくり本機をトラック荷台へ完全に乗せます。
- ⑤ 輸送時、本機が移動しないように走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にして、さらにクローラに輪止めをして、ワイヤロープなどで本機をトラック荷台に十分固定してください。

！ 危険

- 燃料の補給時は、エンジンを停止し、火気を絶対に近づけてはいけません。
- 点検整備のために、本機を持ち上げるときは、しっかりとしたガレージジャッキを使い落下防止をかけてください。クローラを石や木片に乗り上げて、本機の下へもぐり込んではいけません。落下防止を怠ると、はさまれる危険があります。
- 薪割り機を上げて点検・整備するときは、薪割り機が落下しないように、安全支柱、安全ブロックなどをもちいてください。
怠ると、なんらかの原因で荷台が下がったときに、傷害事故をおこす危険があります。
- 本機はいつも美しく保ち、グリスやオイル、枯草の堆積など火災のおそれのあるものを取り除いて下さい。
- オイルの交換作業は、エンジンを停止し、火気を絶対に近づけてはいけません。排油は運転終了後、油温が適当に冷えてからおこなってください。
本機に付着したオイルはきれいにふきとってください。

！ 警告

- エンジン回転時およびエンジン停止直後のエンジン本体、マフラーや油圧機器は高温のため触れるとヤケドをします。エンジン本体、マフラーや油圧機器などには不用意に触れないでください。
- 点検や整備のために本機に取りつけられている安全のための保護カバーを取り外すときは、その部分の作動が完全に停止していることを確認してから、保護カバーを取り外してください。点検や整備のために取り外した保護カバーは必ず元の通りに取り付けてください。

**！ 注意**

- 各部の点検・整備をするときは下記の3項目を励行してください。
 - a) 交通の危険が無く、平坦で安全な場所（屋外）に本機を停止させます。
 - b) 走行クラッチレバーを『切』（停止）の位置にして駐車ブレーキをかけます。
 - c) クローラに輪止めをします。
- 点検・整備はエンジンなどの高温部分が完全に冷えてからおこなってください。
- 点検・整備のときは、適正な工具を使用してください。間に合わせの工具で点検・整備をおこなうと、作業中のケガや整備不良による事故の危険性があります。
- ワイヤ・ロッド関係の調整後は、ロックナットでアジャストボルト・ターンバックルを確実に固定してください。

危険

各部の性能を維持、低下させないために指定オイル以外は使用しないでください。

本機を使用される前に、仕業点検をおこなってください。事故や故障を未然に防ぐためには欠かすことができません。

機械を一周すれば簡単にできますので、作業開始前に点検をおこなってください。

- ブレーキの効き具合、ボルト・ナットの緩み、オイル・燃料の量及びにじみの有無、クローラの張り具合、変速機の作動具合、Vベルトの張り具合、レバー類の作動具合、各部の油脂状態など。

※仕業点検により不具合（異常）が発見された場合は直ちに補修などの措置を講じてください。
絶対にそのまま使用しないでください。

■ 仕業点検一覧表

No.	項 目		参照ページ
1	前日使用の異常箇所		－
2	オイル・燃料漏れの点検	燃料系統配管	－
		トランスミッション	－
3	燃料の点検、補給		31
4	エンジンオイルの点検、補給		32
5	トランスミッションオイルの点検、補給		32
6	走行 V ベルトの張り具合の点検、調整		34
7	ブレーキの効き具合の点検、調整		34
8	クローラの張り具合の点検、調整		35
9	旋回レバーの作業具合点検、調整		35
10	配線及びエンジン回りの清掃		－
11	各部の給油脂状態		33
12	操作ラベル、警告ラベルの貼付状態の点検		14
13	保護カバー類の取り付け状態の点検		－
14	ボルト、ナット、ピン類の欠落、ゆるみなどの点検		－

※ エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書をご参照願います。

本機を定期的に点検整備するかどうかによって、本機の故障や寿命に大きく影響しますので、定期的に点検・整備を実施してください。

また、作業条件が悪い場合には早めに点検整備を実施してください。

◎初回 ○通常

点 検 項 目		次の運転時間毎に点検・整備をする h						
		25	50	100	200	300	500	その他
旋回装置	旋回レバーの遊び、ロッドのゆるみ及びがたの点検・調整	○						
	操作具合の点検		○					
制動装置	ブレーキの効き具合の点検		○					
	ワイヤー類のゆるみ、がた及び損傷の点検・調整		○					
走行装置	クローラの亀裂、ラグ高さ及び損傷の点検			○				
	クローラの芯金の摩耗及び腐食の点検					○		
	クローラの張り具合の点検・調整		◎	○				
	転輪・スプロケットの摩耗、ゆるみ、がた及び損傷の点検			○				
	テンションローラの摩耗、ゆるみ、がた及び損傷の点検			○				
動力伝達装置	走行クラッチのつれ及び切れ具合の点検（ベルトテンション）	◎	○					
	V ベルトの張り具合、摩耗及び損傷の点検・調整	◎	○					
	トランスミッションオイルの点検		◎			○		
	トランスミッション操作機構のがたの点検			○				
エンジン関係（電気系統も含む）	エンジンオイルの交換	◎		○				
	燃料フィルターエレメントの洗浄及び水抜き		◎	○				
	エアクリーナーエレメントの清掃・点検		○					
	点火プラグの清掃			○				
	点火プラグのすき間の点検・調整				○			
	気化器の清掃				○			
	燃料タンクの清掃				○			
	フューエルパイプの交換							1年毎 / 点検
	電器配線の損傷及び接続部のゆるみの点検							1年毎 / 点検
変速装置	主変速レバーの操作具合の点検・調整		○					
その他	稼働部へのグリス、オイルの補給		○					
	ボルト、ナット、ピン類の欠落、ゆるみなどの点検		○					
	操作ラベル、警告ラベルの貼り付け状態の点検			○				
	保護カバー類の取り付け状態の点検			○				

※ エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書をご参照願います。

！ 危険

○燃料は非常に燃えやすく、危険です。取扱いには十分注意してください。

○燃料の補給時、燃料フィルタの清掃・交換、燃料パイプの交換など燃料系統の整備時には必ずエンジンを停止して、くわえタバコや火気の近くで作業しないでください。

○こぼれた燃料はいつもきれいに清掃してください。

エンジン	ホンダ GX200
燃 料	無鉛ガソリン
容 量	3.1L

**重 要**

○燃料を補給する場合は、必ず燃料のストレーナを通してください。

○燃料タンク内にゴミや水が混入しないように十分注意してください。

○燃料をペットボトルなどに入れて保管しないでください。また、ペットボトルなどに入れた燃料を使用しないでください。エンジン故障の原因になります。

！ 危険

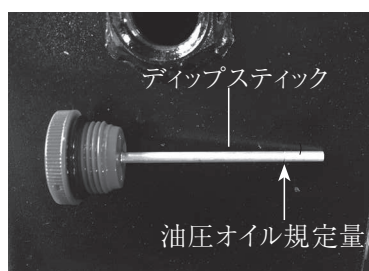
油圧オイルはエンジン稼働時は高温になっています。高温のオイルが皮膚に触れると重度の火傷を危険があります。油圧オイルメンテナンス・点検を行うときは必ずエンジンが冷却し圧力が抜けた状態で行ってください。

！ 危険

油圧ポンプやバルブ部は薪割り機稼働時は高い圧力がかかっています。高压の流体が皮膚に触れると皮膚が負傷するだけでなく傷口から体内に侵入し重傷を伴う場合があります。油圧オイルメンテナンス・点検を行うときは必ずエンジンを冷却し圧力が抜けた状態で行ってください。万一負傷した場合は速やかに医師の診断を受けてください。

■ 作動油圧オイルの適正量と交換方法

オイルの種類	VG32 油圧オイル
容 量	16L
交換時期	1 年または 100 時間毎



- ① 薪割り機が水平になっている事を確認してください。
- ② 油圧オイル給油口のキャップを左に回して外します。
- ③ キャップについているデイップスティックのオイルをウエス等でふき取り再度キャップを油圧オイルタンク投入口に差し込みオイル量を確認します。
- ④ 規定量より少ない場合は給油口からオイルを追加します。
- ⑤ 油圧オイルを交換する場合は油圧オイルタンク下の油圧オイルドレンから油圧オイルを抜き取ることができます。油圧オイルを抜く際は大きめの受け皿を用意し、17mm のレンチでドレンボルトを緩めます。
- ⑥ 抜き取ったオイルはお住まいの地域のルールに従い処分してください。

！ 危険

○点検・補給・交換作業はエンジンを止めてからおこなってください。火気は厳禁です。

○本機に付着したオイルはきれいにふき取ってください。

！ 注意

エンジン停止直後は、マフラやマフラカバー、配管、油圧機器、エンジン本体およびエンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとヤケドの危険があります。オイルの点検、補給、オイルやオイルフィルタの交換は安全な温度に下がった状態で作業してください。

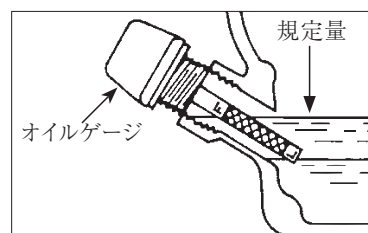
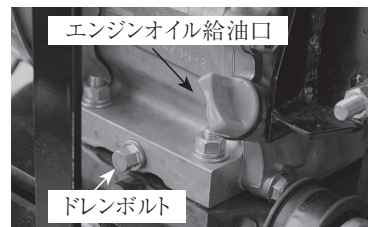
■ エンジンオイルの適正量と交換方法

オイルの種類	4 サイクル用エンジンオイル (10W-30)
容 量	0.6L
交換時期	初回 25 時間 / それ以降は 1 年または 100 時間毎

- ① 薪割り機を縦型の位置にして、エンジンカバーを取り外します。
- ② 給油口を外してオイル量を点検し規定量まで補充して下さい。汚れている場合は交換してください。
- ③ オイルを交換する場合は、ドレンボルトを外して汚れたオイルを出しきり、排油後はドレンボルトを確実に締付けてください。
- ④ 給油口からオイルを規定量までいれます。

補 足

使用済みエンジンオイルはお住まいの地区のゴミ処理方法に従い適切に破棄してください。

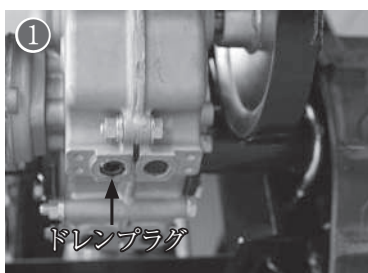
**！ 危険**

○点検・補給・交換作業はエンジンを止めてからおこなってください。火気は厳禁です。

○本機に付着したオイルはきれいにふき取ってください。

！ 注意

エンジン停止直後は、トランスミッション本体及びトランスミッションオイルが高温になっており、手や肌が触れるとヤケドの危険があります。オイルの点検、補給、オイルの交換は安全な温度に下がった状態で作業してください。

■ トランスミッションオイルの交換

- ① トランスミッション底部にあるドレンプラグを外して汚れたオイルを出しきります。
- ② 排油後はドレンプラグを確実にしめつけてください。
- ③ 荷台固定カバーを取り外します。
- ④ トランスミッション上部にある給油口からオイルを入れます。

オイルの種類	オイル量
オートマチックオイル(ATF)	約 0.7L

補 足

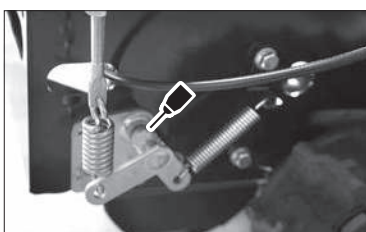
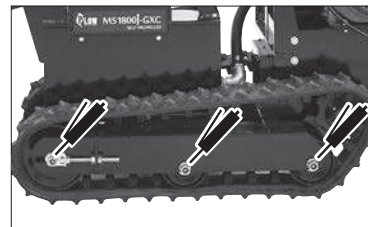
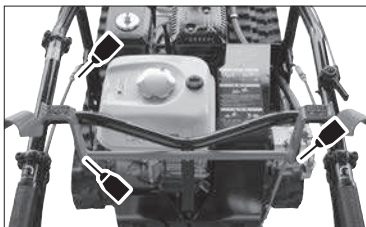
トランスミッションオイルの排油は、容器に受けてお住まいの環境基準にしたがって公害にならないよう処理してください。

！ 注 意

○記載されている以外にも、摩擦部や動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害事故をおこすおそれがあります。

○定期的に油さし・グリスポンプで確実に注油・グリスアップしてください。

◆注油位置さい。 —  ◇グリスアップ位置 — 



！ 注 意

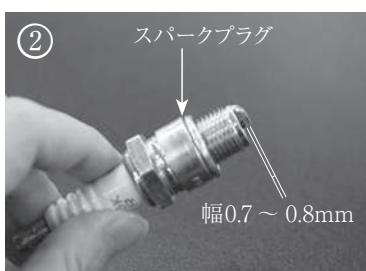
エンジン停止直後は、マフラーやマフラーカバー、配管、油圧機器、エンジン本体およびエンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとヤケドの危険があります。プラグの点検・交換は安全な温度に下がった状態で行ってください。



エンジンの点火が正常に始動しない場合、もしくは使用 100 時間毎にプラグの清掃を行ってください。プラグの汚れがひどい場合は新しものと交換してください。

① エンジンのエアーフィルターとマフラーの間にあるプラグキャップを強く引くとプラグがあります。

② スパークプラグをプラグレンチ等で外し、プラグの先端の汚れを取り除き、間隔は 0.7 ～ 0.8mm 前後になるようにしてください。



プラグ型式	デンソー W20EPR-U NGK BPR6ES
プラグレンチサイズ	21mm
清掃時期	1 年または 100 時間毎

1

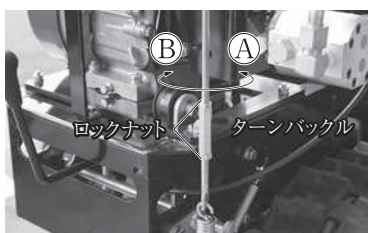
走行クラッチ調整



注 意

- 調整する際は、必ずエンジンを停止した状態でおこなってください。
- 調整後は、走行クラッチの作動具合を確認してください。
- 調整後は、ゆるめたボルト・ナット等を確実に固定してください。
- 走行クラッチの調整を行うと、駐車ブレーキの設定も多少変わってしまうので、クラッチ調整後は必ず駐車ブレーキの効き具合を確認してください。

■ 走行クラッチの調整方法



- ① 走行クラッチ（Vベルト）がすべる場合は、走行クラッチロッドのロックナットをゆるめターンバックルを『(B)』方向に回してください。
- ② 走行クラッチレバー先端での最大操作力の基準値は約50N（約5.1kgf）です。
- ③ 走行クラッチが完全に切れない場合は、ターンバックルを『(A)』方向に回すか、ベルト押さえを調整して、ベルトのつれ回りを防止してください。

重 要

ターンバックルを『(B)』方向に回しすぎると正常なクラッチ機能を失います。
(走行クラッチを『切』（停止）の位置にしても、動力が繋がったままの状態になる)

2

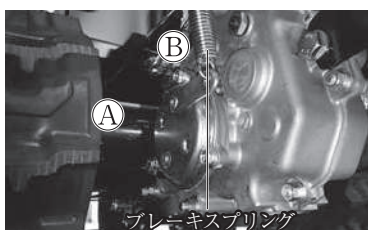
駐車ブレーキ調整



注 意

- 調整する際は、必ずエンジンを停止した状態でおこなってください。
- 調整後は、駐車ブレーキの効き具合を確認してください。
- 調整後は、ゆるめたボルト・ナット等を確実に固定してください。

■ 走行クラッチの調整方法



- ① ブレーキの効きが悪い場合は、ロックボルトをゆるめ、ブレーキ調整金具を『(B)』方向に移動してください。
- ② ブレーキが効きすぎる場合は、ロックボルトをゆるめ、ブレーキ調整金具を『(A)』方向に移動してください。

※ 駐車ブレーキ調整の目安として、走行クラッチレバーを『入』（走行）から『切』（停止）にしたとき、ブレーキスプリングが3～5mm程度伸びるようにブレーキ調整金具を調整してください。

重 要

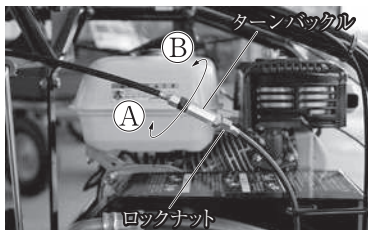
ブレーキ調整金具を『(B)』方向に移動しすぎると、ブレーキが常に効いた状態となり、トランスミッション破損の原因となります。

！ 注意

- 調整する際は、必ずエンジンを停止した状態でおこなってください。
- 調整後は、旋回レバーの作動具合を確認してください。
- 調整後は、ゆるめたボルト・ナット等を確実に固定してください。

■ 旋回レバーの調整方法

旋回レバーを操作しても本機が旋回しない場合は下記の方法で調整してください。



- ① 旋回レバーに遊びがある場合は、ロックナットをゆるめ、ターンバックルにて遊びがゼロになるように調整してください。『B』方向に回すと遊びは少なくなります。

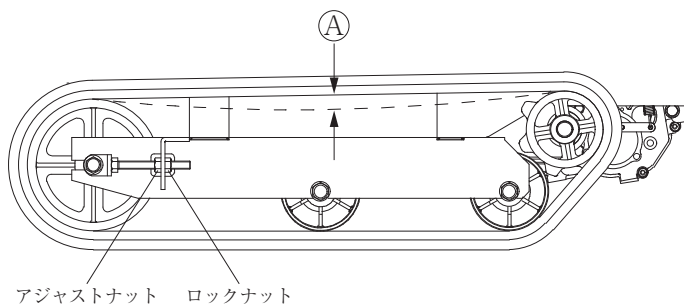
重要 アジャストボルトを『B』方向に移動しすぎると正常な旋回機能を失います。

！ 注意

- 調整する際は、必ずエンジンを停止した状態でおこなってください。
- 調整後は、ゆるめたボルト・ナット等を確実に固定し、外したピン等を確実に取り付けてください。

■ クローラの張り調整方法

クローラの張りが十分でなかったり、張りすぎの場合は下記の方法で調整してください。



- ① ロックナットをゆるめ、アジャストナットをまわして張り調整してください。
- ② 張り調整の目安は、手で押してたわみ『A』が10～15mmぐらいです。

重要

- 長い間ご使用になりますと、ドロやサビでアジャストナットがまわりにくくなります。ご使用後は、水洗いやネジ部へのグリスアップをしてください。
- クローラ張り不足の場合、クローラはずれ、スプロケットの飛び、クローラの異常磨耗が発生します。また、張りすぎの場合も駆動力の低下、異常磨耗の原因となります。従って、たわみ『A』10～15mm に特に注意を払ってメンテナンスをおこなってください。

○寒冷期は、使用后必ず付着した泥・水分・異物を取り除いてください。

○本機が凍結している可能性がある場合は、無理に動かそうとはせずに、水・ぬるま湯などで溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。熱湯はかけないでください。

※この場合の故障・ダメージについては責任をもちませんので特にご注意ください。

シーズンオフや1か月以上ご使用の予定がない場合は本機に適切なメンテナンスを行った上、雨風の当たらない場所に保管してください。適切な処理をされない場合、次回使用時に不具合が発生する場合があります。その場合の不具合・故障につきましては保証対象外となりますのでくれぐれもご注意ください。エンジン内の燃料の抜き方、エアークリーナー等のメンテナンスについてはエンジン取扱説明書の「長期間使用しないときの手入れ」をご参照ください。

**危険**

本機の上に薪や物を置いて収納しないでください。物を立てかけたり、不安定な場所に保管をしないでください。また燃料等は機体から抜き取り、タンク内は空の状態に保管してください。抜いた燃料は（燃料劣化材などを使用した場合を除き）長期保管はできかねますので、使い切っていただくようにしてください。長期保管後の残った燃料のご使用は本機の故障の原因となりますのでやめてください。

**警告**

本機を格納するときは、マフラーなどの高温部分が冷えてから燃えやすい物が近くにない場所に格納してください。燃えやすい物の近くに格納すると、火災の原因となります。

■ 保管時の注意点

本機を長期保管するときは、下記の事項に注意してください。

○付着した泥・木くず等を取り除いて、屋内の硬い乾燥した地面上に格納してください。

○給油・給脂・オイル交換をおこなってください。

○油圧シリンダーのピストンロッド部の露出部分並びに可動部分にグリスを塗ってください。

○手入れ後は、雨風の当たらない場所に置き、ストッパーや輪止め等でタイヤを固定して保管してください。

■ キャブレター内の燃料排出方法

ガソリンは燃料タンク内に入れたまま長期保管すると劣化し、エンジン不調の原因となります。燃料タンク内に大量にガソリンが残っている場合は事前に給油ポンプ等で抜いて量を減らしておいてください。



- ① 燃料コックを「 (←)」の位置にして閉じます。
- ② 排出する燃料を受けるためのオールドレンや容器をドレンボルト下に設置し、キャブレターのカップ部分の斜め下にある燃料ドレンボルトを 10mm のレンチで緩めるとキャブレター内のガソリンがボルト穴から排出されます。燃料コックを「OPEN (→)」にすると燃料タンクの中のガソリンも排出されます。
- ③ ボルト穴から燃料タンクやキャブレターに残っていたガソリンがすべて排出されたらドレンボルトを締めなおし、燃料コックを「 (←)」にして閉じます。

■ 機体のトラブル

トラブル	考えられる原因	処 置
走行クラッチが入らない	ターンバックルノ調整	ターンバックルの調整
	V ベルトの摩耗	点検後、交換
走行クラッチが切れない	ベルト周り止めの調整不良	ベルト回り止めの調整
	ターンバックルの調整不良	ターンバックルの調整
走行クラッチが入らない	走行クラッチ部の錆び	点検ご、給油または交換
	走行クラッチワイヤの調整不良	ワイヤの調整
	爪クラッチスプリングの破損	購入された販売店にご相談ください
旋回クラッチが切れない (旋回しない)	旋回レバー部の破損	点検後、交換
	旋回レバーワイヤの調整不良	ワイヤの調整
	爪クラッチの摩耗又は破損	購入された販売店にご相談ください
異常音が出る	トランスミッションオイルの不足	点検後、補給
	歯車の摩耗又は破損	購入された販売店にご相談ください
	ベアリング又はカラー摩耗	購入された販売店にご相談ください
歯車が抜ける	主変速レバーの変形	点検後、調整または交換
	シフターフォーク用パネの破損	購入された販売店にご相談ください
変速操作できない	歯車の破損	購入された販売店にご相談ください
	主変速レバーの変形	点検後、調整または交換
駐車ブレーキの効が悪い	調整不良	ブレーキ調整金具の調整
	ブレーキ軸の錆び	点検後、給油
	ブレーキレバーの錆び又は破損	購入された販売店にご相談ください
	ブレーキシュー・ドラムの摩耗	購入された販売店にご相談ください
スムーズに走行しない	スプロケットの摩耗及び破損	交換
	転輪・テンションローラの破損	交換
	クローラ張り調整不良	点検後、調整
クローラが外れる	クローラ張り調整不良	点検後、調整
	スプロケットの摩耗及び破損	交換
	転輪・テンションローラの破損	交換

※ わからない場合は、ご購入された販売店にご相談ください。

■ エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因	処 置
エンジンが作動しない。	燃料が入っていない。	購入 1 ヶ月以内の新鮮なガソリンを入れてください。
	燃料タンク・キャブレター内に古いガソリンが残っている。	燃料タンクやキャブレター内の古いガソリンを排出し購入 1 ヶ月以内の新鮮なガソリンを入れてください。
	燃料コックレバーが開いていない	燃料コックレバーを開いてください。
	チョークレバーが開いた状態になっている（もしくは被っている）	エンジンの状態によりチョークレバーを調整する必要があります。詳しくは本書 19 頁「エンジン始動の仕方」を参照してください。
	エアークリーナーが汚れている。	エアークリーナーを清掃もしくは交換してください。
	プラグが緩んでいる。	プラグを 25 ～ 30Nm で占めてください。
	プラグキャップの緩みまたは脱落	プラグにしっかりとプラグキャップを取り付けてください。
	プラグの劣化や不良より火花が飛ばない。	新しいプラグを取り付けてください。
	電極間の隙間が適切ではない。	0.7 ～ 0.8mm で電極間の隙間を設定してください。
	燃料タンクキャップの空気穴が詰まっている。	燃料タンクキャップを外して始動する場合はつまりが考えられます。その場合はキャップの清掃・交換をしてください。キャップを強く締めすぎる場合も空気穴をふさぐ原因となります。
リコイルが引けない。	薪割りコントロールレバーが中立の位置に戻っていない。	コントロールレバーを中立の位置に戻してください。
	エンジンオイルが多く入っている。	エンジンオイルゲージで量を確認し適量にしてください。
	エンジンオイルが減っている。	エンジンオイルゲージで量を確認し適量を充填してください。
始動後、出力が弱まり止まる。	燃料タンク・キャブレター内に古いガソリンが入っている。	燃料タンクやキャブレター内の古いガソリンを排出し購入 1 ヶ月以内の新鮮なガソリンを入れてください。
	チョークを戻していない。	エンジン始動後ゆっくりとチョークを戻して下さい。
	燃料タンクキャップの空気穴が詰まっている。	燃料タンクキャップを外して始動する場合はつまりが考えられます。その場合はキャップの清掃・交換をしてください。キャップを強く締めすぎる場合も空気穴をふさぐ原因となります。
	エアークリーナーが汚れている。	エアークリーナーを清掃・交換をしてください。
エンジンが不安定	燃料タンク内にゴミや水が混入している。燃料が古い。	タンクやキャブレター内の燃料を排出し購入 1 ヶ月以内の新鮮なガソリンを入れてください。燃料タンク内に錆や塵が沈殿している場合はタンクを交換してください。
	プラグが故障している。	新しいプラグを取り付けてください。
	電極間の隙間が適切ではない。	0.7 ～ 0.8mm で電極間の隙間を設定してください。
	エアークリーナーが汚れている。	エアークリーナーを清掃・交換をしてください。
アイドリングが不安定	エアークリーナーが汚れている。	エアークリーナーを清掃・交換をしてください。
	エンジンシユラウドの空気スロットルが塵でふさがっている。	空気スロットルのゴミを除去してください。
高速でエンジンがスキップ	プラグの電極間の隙間が接近している。	0.7 ～ 0.8 mm で電極間の隙間を設定してください。

※わからない場合は、ご購入された販売店にご相談ください。※エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書をご参照願います。

■ 薪割り時のトラブル

トラブル	考えられる原因	処 置
木が割れない。	木が正しく配置されていない。	木の目に沿ってウェッジが入るように木を置きなおして下さい。
	最大破砕寸法を超えている。	他の手段で寸法以内にカットし木を設置して下さい。
	木の硬さが破砕力を超えている。	他の手段で分割してください。
	ウェッジの切れ味が悪い。	ウェッジが変形したり、破損していないか確認してください。破損している場合は販売店にご連絡下さい。刃先が摩耗している場合は研いでください。
	油圧オイルが漏れている。	紙を使用して油圧オイルの漏れを見つけてください。
	シリンダーの圧力が低い。	販売店にご相談ください。
作動時、強い振動がある	オイルの循環経路に空気が混入している。	オイルの量を確認し、必要に応じて補修してください。発生し続ける場合は販売店にご相談ください。
	燃料タンクキャップ内の空気が詰まっている。	オイルの量を確認し、必要に応じて補充する。続く場合は販売店にご相談ください。
作動時に油圧オイルが投入口から漏れてくる。	本体が水平な場所に設置されていない。	本体を水平な場所に設置しなおしてください。
	油圧オイル量が多い。	油圧オイルゲージで量を確認し、多い場合は排出してください。
静止時に油圧オイルが漏れている。	オイルガスケット・オイルシール等の摩耗によるオイル漏れ	販売店にご相談ください。

型式		MS1800J-GXC
メーカー		PLOW
破砕力		18 ton
エンジン	エンジンメーカー	ホンダ
	形式	空冷 4 サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン
	エンジンモデル	GX200
	排気量	196 cc
	燃料タンク容量	3.1 L
	エンジンオイル量	0.6 L (10-W30 推奨)
	プラグ	デンソー W20EPR-U / NGK BPR6ES
寸法	横型サイズ	全長 1,840mm
		全高 1,000mm
		全幅 650mm
		フレーム傾斜角 15 度
	縦型サイズ	全長 1,740mm
		全高 1,510mm
		全幅 650mm
走行部	クローラー中心距離	460mm
	クローラー幅	180mm
	クローラー接地長	650mm
	最低地上高さ	120mm
	操向方式	サイドクラッチ + 爪式ブレーキ
	変速方式	選択摺動式
	駐車ブレーキ	内拡式ブレーキ
	変速	前進 1 速 1.4km/h
		前進 2 速 3.0km/h
		後進 1 速 1.7km/h
(エンジンスロットルで調整可)		
乾燥重量		284 kg
作動油タンクオイル容量		16 L (油圧用オイル 32 番)
最大破砕寸法		500 mm
サイクルタイム		8.5 秒
JAN		4562450243322
生産国		日本

定期点検記録簿

使用者指名又は名称		住 所	
本機型式		原動機型式	
本機製造番号		原動機製造番号	
旋回装置 ☐ 旋回レバーの遊び、ストローク、ゆるみ及びがた ☐ 作動具合 ☐ ロッド、ワイヤー類のゆるみ、がた及び損傷 制動装置 ☐ 旋回ブレーキの効き具合、遊び ☐ ロッド及びワイヤー裏のゆるみ、がた、損傷及び割りピンの欠損 ☐ ブレーキドラム・ブレーキシューの摩耗及び損傷 ☐ 駐車ブレーキの効き具合 作業装置（油圧ダンブ／手動ダンブ装置関係） ☐ パワーパッケージオイル量、汚れ及びオイル漏れ ☐ V ベルトの摩耗、ゆるみ、損傷、汚れ ☐ 油圧ホースの損傷、劣化及び各部のゆるみ ☐ 油圧シリンダーの損傷及びオイル漏れ ☐ 荷台ロック金具の作動具合 ☐ ダンプレバーの作業具合 走行装置 《テンションローラー》 ☐ 亀裂、変形、摩耗 ☐ 軸部の異音、異常発熱 ☐ 取り付け部のゆるみ、がた ☐ 油脂漏れ 《丈夫転輪及び下部転輪》 ☐ 亀裂、変形、摩耗 ☐ 軸部の異音、異常発熱 ☐ 取り付け部のゆるみ、がた ☐ 油脂漏れ 《スプロケット》 ☐ 亀裂、変形、摩耗 ☐ 取り付け部のゆるみ、がた 《ゴムローラ》 ☐ クローラの亀裂及び損傷 ☐ クローラのラグの高さ ☐ クローラの芯金の摩耗及び腐食 ☐ スチールコードの損傷 ☐ クローラの張り具合 《ゴムクローラ張り調整装置》 ☐ 作動具合 ☐ 調整ボルト、ナット、スプリングの変形、腐食、摩耗 《下部フレーム》 ☐ 亀裂、変形、損傷、摩耗 ☐ ボルトのゆるみ、脱落		動力伝達装置 ☐ 緊急停止装置（エンジン緊急停止スイッチ）の作動具合 ☐ 走行クラッチの作動具合及び異音（ベルトテンション方式） ☐ V ベルトのゆるみ、損傷、汚れ ☐ トランスミッションの異音、異常発熱及び作動具合 ☐ トランスミッションオイルの量、汚れ及びオイル漏れ 原動機 《本体》 ☐ かかり具合及び異音 ☐ 回転数と加速の状態／排気の状態及びガス漏れ ☐ エアクリーナーの損傷、ゆるみ、汚れ ☐ シリンダーヘッドと各マニホールドしめつけ部のゆるみ ☐ 弁すき間／圧縮圧力 ☐ エンジンベースの亀裂、変形、ボルト、ナットのゆるみ、脱落 ☐ 防振ゴムの損傷、劣化 ☐ 点火プラグの状態 《潤滑装置》 ☐ オイルの量、汚れ／オイルの漏れ ☐ オイルフィルターの汚れ、目詰まり、損傷 《燃料装置》 ☐ 燃料漏れ／燃料パイプの損傷、劣化 ☐ 燃料フィルターの詰まり／噴射のズルの噴射圧力と噴霧状態 《冷却装置》 ☐ 冷却水の量、汚れ、漏れ、ラジエータの目詰まり及びホースの損傷、劣化 ☐ ラジエータキャップの機能及びバルブシートの損傷 ☐ ファンベルトのゆるみ及び損傷 ☐ 冷却ファン、カバーなどの亀裂、変形及び取り付けボルト、ナットのゆるみ その他 ☐ 可動部分の給油脂の状態 ☐ 車枠及び車体の亀裂、変形 ☐ 取り付けボルト、ナット、ピン類の欠落、ゆるみ、脱落 ☐ 座席、取り付けボルト、ナットゆるみ、脱落 ☐ 操作ラベル、注意ラベルの取り付け状態 ☐ 手すりの変形、損傷 ☐ 荷台落下防止装置の亀裂、変形、損傷 ☐ 計器類の作動状態	
備考		点検年月日	年 月 日
		点検を実施した者の氏名又は名称	

M E M O

M E M O

M E M O



パーツリストについては、プラウ ホームページでのご案内となります。

左の QR コードまたは下記 URL からアクセスしてください。

「部品図・パーツリスト」 ページ URL

bit.ly/plowparts

発売元 株式会社ホンダワーク

〒943-0173 新潟県上越市大字富岡256-2

お問い合わせ先 ☎025-530-7025

<https://plow-power.com/>

